

下平洋一 後援会だより

令和3年吉日



令和3年新年総会中止のご案内

下平洋一後援会会長
宮下 覚一

あけましておめでとうございます。

皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素は下平洋一後援会に対しまして、格別なるご厚情とご高配を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

さて、令和3年新春に予定しておりました、恒例の「下平洋一後援会 新年総会」の開催の是非を検討してまいりましたが、新型コロナウイルスの収束が見通せないことから、ご出席いただきます皆様の健康と安全を第一に考慮し、大変残念ですが開催の中止を決定いたしました。例年ご出席いただいております皆様には誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解いただきますとともに、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

一日も早い新型コロナウイルス感染の終息と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。



今後進められる事業紹介

- 国交省による与田切川第7堰堤セルダムの改修工事
- 国交省による与田切川第1堰堤と第2堰堤の土砂除去工事
- 県企業局の与田切発電所新設と現発電所の改修工事
(町と連携する発電所は別件)

◎このように、国・県の大規模事業が与田切川上流で実施されることで、頻繁に利用されることになる与田切川のオンボロ沢合流地点までへの道路の補修整備をしっかりとお願い致しました。その結果、この件に係わる調査に入る返事を頂きました。

◎上伊那各地でも河川改修工事が進む中、土砂や排出土の利用として、与田切川左岸への排出土利用をお願いしました。国交省には今までも与田切川の親水公園として格別なご支援を頂いてまいりました。

この度、アウトドア事業の与田切ウォーターパーク構想による遊歩道やサイクリング道路を設置するなど、更に身近な親水河川を目指した計画を説明させていただきました。

国交省は与田切川の安全な管理道を整備する目的で工事実施することになり、この利用については多くの方に自由に利用してもらいたい意向です。既に与田切川左岸に当該管理道が姿を現しています。



●広域農道の歩道設置工事による与田切川歩道橋工事

◎年度当初に県担当者と役場で面談し要望いたしました。令和2年度中に歩道橋の南北の接続を完成する予定で工事進行しています。

引き続き、柏木信号までの工事を進展するよう県へ強く要望し、その方向性を確認しました。



町政のご報告

飯島町町長
下平 洋一



あけましておめでとうございます。町民の皆様方にはご健にて新春をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

日頃より変わらぬご支援を賜り心より感謝申し上げます。光陰矢の如し。2期目もスタートして早1年が経過し、就任して通算6年目を迎えます。時代は10年後のリニア開通や三遠南信自動車道開通で、伊那バレー全域が大きな期待の膨らむ所となりました。特に、リニアで関東や中京、関西へ1時間以内の距離となり、しかも、自然豊かで安全性の高い地形が背景にあることは、地政学的にも魅力十分であり多くの人々や企業から注目を集めることとなります。

私たちは大転換期を迎えています。飯島町は第6次総合計画としても10年後をターゲットに、町の形の骨格を明確に定め、着実に準備を進めなければなりません。中でも、町の産業や生活ぶりの豊かさを生み出す、経済的基盤の構築が重要です。この後援会だよりでお伝えします「環境循環ライフ構想」は、飯島町の将来を見据えた主要プロジェクトであります。町民の誰もが願う自然を大切に、且つ、自然と共生する経済発展を実現するためのものです。

紹介する4つの柱となる事業は、飯島町営業部をはじめとする今までの施策の積み重ねを受けて実施するもの、あるいは又、町長の職務上の人的交流から得た将来性のある情報を、他に先んじて捉えて各事業の主要関係者と懇談を重ねながら、多方面の協力者と信頼関係を深めて来て実施できるものです。今日、4事業が連携しながら「環境循環ライフ構想」として、表舞台に浮上することになりました。ここでは、事業内容をイラストや図面で紹介していますが、私の言葉で説明する機会をつくり、多くの方のご理解とご協力を得られるように計画しています。今後とも、引き続きのご支援を頂きますようお願い申し上げますとともに、町民の皆様にとって本年が良い年でありませうご祈念申し上げます。ご挨拶とします。

●学校給食センター新築工事資金繰り

◎現在のところ、事業費は約7億円。年当初からコロナ禍ではありましたが、何度も官庁回りなど政治努力を行って、国の補正予算で補助金を7千万円、国の有利な起債として2億5千万円を獲得することが出来ました。当面は、3億8千万円の一般財源の持ち出しで、建設工事に掛かることが出来ました。国の起債についてはいずれ返済しなければなりません。この分には交付税処置がありますので町の財政負担が軽減されることになります。



●リニア北バイパス建設促進期成同盟会推進

◎国道153号線のバイパス整備は、伊那バイパス、伊駒アルプスロード、伊南バイパスとそれぞれ計画が進んでいます。しかし、本郷から南のリニア新幹線駅予定地までの国道153号線整備計画は未着手です。この区間が完結しなければ伊那谷の重要物流道路としてのバイパス機能が十分に発揮できません。

関係自治体である飯島町、中川村、松川町、高森町が建設促進期成同盟会を結成し、飯島町長が会長を受けて、上伊那振興局、長野県庁、中部地方整備局、国交省等への要望や研究会を積極的に行っています。

本期成同盟会の要望は、単なる道路拡幅や線形整備だけでなく、このリニア北バイパスをリニア新幹線の2次交通に位置付けて、自動運転時代を想定した新時代の交通システムを提案しています。

これは、伊那谷全体のバイパスを南北に結ぶ自動運転バスを定期的に走らせ、各自治体の道の駅等へ停車する。そして、そこから各町村内を巡る自動運転車両へ乗り換える。リニアという日本の最新鋭の交通に対し、最先端の交通システムで迎えることを提案しています。

この提案が面白いと関係者よりなかなかの評判を得ています。